

# 社会福祉法人医療介護施設研究所

## 平成26年度 事業計画



指定介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム	まほろばの里たいわ
ユニット型指定介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム	まほろばの里たいわ
指定短期入所生活介護	ショートステイ	まほろばの里たいわ
指定通所介護	デイサービスセンター	まほろばの里たいわ
指定居宅介護支援事業所	まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所	
認可外保育園		たいわっこ保育園

# 平成26年度事業計画 目次

法人理念・運営理念・平成26年度運営方針	1
特別養護老人ホームまほろばの里たいわ事業計画	4
ショートステイまほろばの里たいわ事業計画	5
デイサービスセンターまほろばの里たいわ事業計画	6
まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所事業計画	8
たいわっこ保育園事業計画	9
<b>【各委員会及び係 年間計画】</b>	
ユニットケア委員会・事故防止対策委員会・苦情解決委員会	10
防災対策委員会・感染（褥瘡）予防対策委員会	11
研修委員会	12
I T（情報技術）委員会・給食委員会	13
排泄・口腔委員会・レク・ボラ係（年間行事計画）	14
喀痰吸引等業務検討委員会	15
園芸クラブ	16

○ 法人理念

「人間尊重」

「利用者第一」

○ 運営理念

「利用者に喜ばれる運営」

「地域に喜ばれる運営」

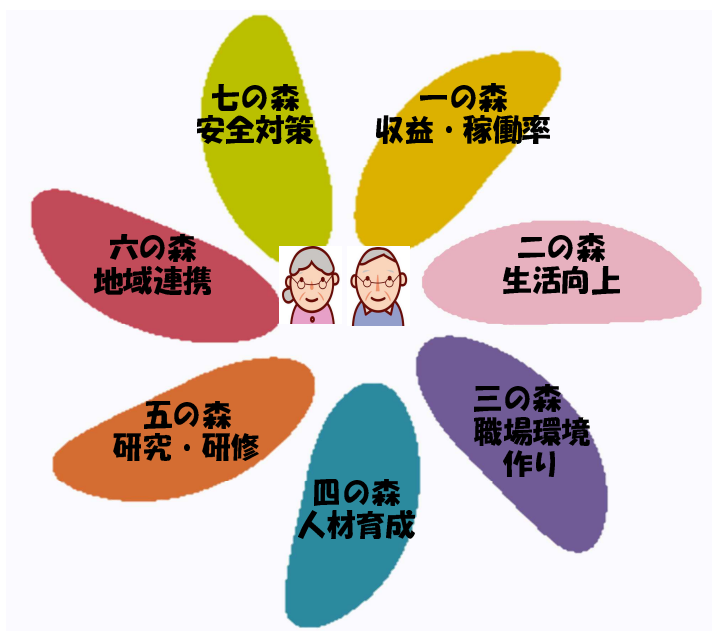
「職員に喜ばれる運営」

そして

社会に貢献できる法人を目指す

○ 平成26年度運営方針

大和町のシンボル、法人のマークである七つ森にちなみ、七つの項目を基に平成26年度の施設運営を行います。



～いつでも誰でも集える暮らせる

小さな街を目指して～

「入居者、家族、地域の住民、

職員、業者などなどいろんな人が集まる

施設作りを目指します」



## **一の森 【各部門の稼働率】**

- ① 特別養護老人ホーム稼働率98%以上の確保
- ② 短期入所生活介護稼働率85%以上の確保
- ③ 通所介護稼働率65%以上の確保



## **二の森 【入居者の生活向上】**

～ 入居者、職員が家族のように「共に生活をする」  
暖かい家庭のようなケアの提供 ～

- ① 食事、入浴、排泄等の基礎的ケアの質の向上
- ② 入居者が暮らしやすい生活環境作り（24時間シート活用）
- ③ イベント、外出、施設外の活動、保育園児との交流等、入居者が楽しめる生活作り
- ④ ユニット（家）間の連携強化（町内会の発足）



## **三の森 【働きやすい職場環境作り】**

- ① いつでも誰でも相談できる環境作り
- ② 各職種間の連携強化及び役割の明確化
- ③ 会議の方法の見直し
- ④ 職員が楽しく働ける環境作り（親睦会の活用等）
- ⑤ 人事考課制度の実施



## **四の森 五の森 【人材育成 研修・研究】**

- ① 人材育成（内部研修、外部研修の参加）
- ② 人材確保（地域住民の雇用の場として）
- ③ 資格取得講座の実施（介護職員初任者研修・実務者研修の実施）
- ④ 福祉系学校との連携（介護福祉士取得のための学習 施設内研修 症例研究）
- ⑤ 平成27年度からの実習受入れ施設のための準備（実習指導者講習への職員参加）
- ⑥ 事例研究会の開催



## **六の森 【地域連携】**

---

- ① M T S（まほろばの里たいわセミナー 地域連携研修会）の実施
- ② 他事業所間の連携（居宅介護支援事業所を中心として）
- ③ 小中学校の職場体験受入れ
- ④ ボランティア育成
- ⑤ 地域イベントへの積極的参加（まほろば夏祭等への参加）
- ⑥ 大和町、大和町社会福祉協議会との連携強化



## **七の森 【安全対策】**

---

- ① 防災対策の強化（備蓄食糧の整備 避難訓練の実施）
- ② 事故対策の強化（事故対策委員会を中心とした介護事故防止対策の強化）
- ③ 感染対策の強化（感染予防対策委員会を中心とし、感染対策の徹底）
- ④ 苦情解決体制の強化（苦情解決委員会を中心とした、苦情解決体制強化及びサービス向上）

# 特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

## 平成26年度事業計画

### 【平成26年度目標】

#### ① 入居稼働率98%以上の確保

特別養護老人ホームの入居稼働率を98%以上確保を目指します。  
そのためにも、空床が出てから新規入居までの期間を短縮するため、優先入居判定～実態調査、入居決定までの流れを円滑にしていきます。  
また、入居申込者本人・家族・担当ケアマネージャーとの情報共有もこまめに行い、空床が出た際に円滑に入居が出来るようにしていきます。

#### ② ユニットケアの実現

入居者にとっての「生活」をメインに考え、「職員、入居者が共に生活をする」ケアを目指すためにも、「ユニットケア」についての理解を職員一人ひとりが理解し、実践していくことが重要です。  
平成26年度は、ユニットケア委員会が中心となり、「ユニットケア」について職員への研修を行いながら、「ユニットケアの実現」を目指します。

#### ③ 情報共有の徹底

サービスの質を確保するため、ユニット職員間、介護、リハ、ケアマネ、相談員、看護師、事務職との情報共有を徹底していきます。  
各職種の役割、業務内容の明確化をし入居者・家族・地域の方々からの要望、希望等の用件に適格に、スピーディーに担当者へ繋ぐことができ、入居者・家族・地域から信頼される施設作りを目指します。  
また、ユニット間の連携の取組として、町内会を発足しユニット間の情報共有やイベントへの参加、交流を促進していきます。

#### ④ 入居者、職員が共に楽しめる環境作り

レク・ボラ係り、親睦会を中心とし入居者・職員が共に楽しむことができるような行事の企画立案を行います。また、行事だけではなく日常的に地域に出て行けるような企画をユニット毎に行い、まほろばの里たいわでの生活が楽しめるような環境づくりを目指していきます。

# ショートステイ まほろばの里たいわ 平成26年度事業計画

## 《目標》

- ・ 入居稼働率の平均を85%以上維持する
- ・ デイサービスセンターとの連携を図り、新規利用者の獲得に繋げていく
- ・ サービスの質の向上を図る

## 《具体的達成方法》

- ・ デイサービスセンターとの連携

ショートステイ希望者の状況に応じてデイサービスの利用ができるかどうかを申込受付時に相談し、デイサービス、ショートステイ両方の利用者獲得に繋げる。

また、利用者・家族の状況に応じて長期入居（特別養護老人ホーム入居）への移行ができるような一連のサービス体制を取ることで、家族にとって利用をすすめる際の大きな安心材料となる特色を活かしながら利用希望者の拡大に繋げたい。

- ・ 空室状況を各居宅介護支援事業所へ公開する
- ・ ユニット職員、看護師と情報共有し、新規利用者のスムーズな受け入れができるようにする。また、サービスの向上に努め、リピーターの獲得を目指していく。
- ・ 長期入居申込時にショートステイ・デイサービスの案内をしながら、状況に応じて利用検討していただき、利用者獲得に繋げていく。
- ・ ユニット職員数の安定を保ち、サービスの質の向上に繋げるとともに、各種研修を通して、職員にとってやりがいのある職場環境の形成に努める。

# デイサービスセンター まほろばの里たいわ 平成26年度事業計画

## 1 利用者数の確保

通所介護稼働率65%以上を確保する。

### ● 平成26年度 登録者数目標数値

登録者数 (月間総数)	要介護	55名	要支援	15名	合計	70名
利用登録数 (1日平均)	要介護	20名	要支援	6名	合計	26名
利用実績数 (1日平均)	要介護	16名	要支援	4名	合計	20名

### ● 平成25年度 実績

登録者数 (月間総数)	要介護	31名	要支援	9名	合計	40名
利用登録数 (1日平均)	要介護	12名	要支援	3名	合計	15名
利用実績数 (1日平均)	要介護	9名	要支援	2名	合計	11名

※ 平成25年度利用実績からの登録率、利用率

登録率 利用者1名に対し、月平均9.2回の登録

利用率 登録人数に対し、76%の利用実績

### ● 目標達成に向けた取り組み

#### ① 活動内容の選択、参加型「まほろば式テーマパーク型デイサービス」の実施

- ・ 選択制の自由な活動を展開することにより、集団での活動が苦手な方や、目的を持って利用される方や男性利用者の確保・定着を図る。

#### ② 利用時間枠の拡大…5時間未満の利用希望者の受入れ実施

- ・ 食事・入浴・リハビリ・マッサージのみを希望される利用者の獲得

#### ③ 黒川病院との連携

- ・ 利用者のADLや趣味、趣向、利用目的に合わせて、デイサービスセンターまほろばの里たいわと黒川病院デイケアとの使い分けをし易い環境を作っていく。

#### ④ 各居宅介護支援事業所との連携強化

- ・ 居宅介護支援事業所への訪問回数を増やし、各居宅介護支援事業所ケアマネージャーが担当している利用者のニーズや問題点の発掘を行い、まほろばの里たいわでの対応方法等を提案し、新規利用者の確保に繋げる。



## 2 基礎介護の向上

### ① 介護技術の再確認、向上を目指す

(食事・入浴・排泄・口腔ケア・コミュニケーション・運転等)

- ・介護技術確認表等の作成し、定期的に確認を行っていく。
- ・他のユニットと連携し、施設内研修を実施していく。  
(3日～一週間程度、職員をユニットへ派遣し、介護技術の研修を行う)

### ② 基本業務の徹底

- ・通常業務のスケジュールの確認(排泄ケア、口腔ケア等の徹底)
- ・役割分担の明確化(業務改善、レイアウト、送迎表、物品、行事等)
- ・外出、買い物などの定番化  
(要支援の利用者を中心に、生活に密着した自立支援サービスの提供)

### ③ アンケートの実施

- ・利用者、家族にアンケートを実施し、サービス満足度や要望希望を集約し、業務改善に繋げていく。

## 3 各部署との連携について

### ① ショートステイスタッフとの合同カンファレンスの実施

- ・ショートステイ、デイサービス両方を利用している利用者の情報共有を行う。

### ② リハ・事務・ショートステイとの合同ミーティングの実施

### ③ デイサービス事業展開プロジェクトチームの設置

- ・まほろば式テーマパーク型デイサービスの実施、定期的な評価を行う。

## 4 人間力の向上

### ① 挨拶、コミュニケーション等接遇の強化

- ・ビジネスマナーや一般常識、挨拶の仕方等、一般社会、一般企業において必要と思われる項目の研修を実施。

### ② 考え方・意識の向上

- ・「無理、出来ない、ダメ」などのネガティブな意識の撤廃  
「実行する為に、達成するためには〇〇が必要」とあくまでも実行、達成を前提とした考え方を身につける。

### ③ 資格の取得

- ・介護福祉関係の資格取得だけでなく、それ以外の資格も含めた資格の取得(英会話マッサージ等)や自分自身の知識の幅を広げるための講習会受講ができるような環境を作る。

# まほろばの里たいわ 居宅介護支援事業所 平成26年度事業計画

## 1 基本方針

要介護者が居宅において日常生活を営むために必要な保健医療サービス、福祉サービスの適切な利用ができるよう、また利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービス、福祉サービスが総合的かつ効果的に提供されるよう、多様な事業者と調整しながら在宅での自立した生活が継続できるよう支援していく。

### (1) 信頼を得る

利用者及びその家族とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。医療、福祉サービス事業所との情報共有を密に行い、信頼関係、事業所間の連携の強化に努める。研修等の地域住民が参加できるような交流の場を多く作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係の構築に努める。

### (2) 課題を正確に捉える

アセスメントを正確に行い、利用者及びその家族の抱える課題や問題と向き合う。

### (3) 情報提供

介護保険制度や、保健医療サービス、福祉サービスの情報を適切に提供する。

### (4) モニタリング

毎月計画的に利用者宅を訪問し、利用者の身体状況、生活環境を把握する。また、利用したサービスの評価と利用状況を確認する。

## 2 実践目標

### ○ 利用者確保

- ・ 関係福祉行政機関、地域包括支援センターとの連携強化に努め、介護支援専門員一人当たり担当件数30名の利用者確保を目標とする。

### ○ 利用者訪問

- ・ 毎月計画的に利用者宅へ訪問し、ケアプランの説明及びモニタリングを行う。

### ○ 保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との連携 給付管理

- ・ サービス提供表の作成、配布、サービス内容の調整及び利用者の情報共有を行い、必要に応じてケアプランの見直しを行う。
- ・ サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し給付管理票の作成、国民健康保険団体連合会へ翌月10日までに提出する。

### ○ 介護支援専門員の資質・専門性の向上

- ・ 専門的な知識・技術を高めるために積極的に研修に参加していく
- ・ 地域包括支援センターと連携し、アドバイスを受けながら困難事例の検討、対応を行っていく。
- ・ 居宅介護支援事業所主催の研修会を企画、実施し自らの資質向上だけでなく、地域全体の介護力向上に努めていく。

# た い わ っ こ 保 育 園

## 平 成 2 6 年 度 事 業 計 画

### 【平成26年度保育目標】

- ・ 心身ともに豊かな子ども
- ・ 思いやりのある子
- ・ たくましい体づくり
- ・ 意欲をもつ子ども
- ・ 自分で考えて行動できる子ども

上記を目標に、保育計画を立案、実施していきます。  
また、特別養護老人ホームとの連携し、行事や日常生活内での交流を持って世代間交流を図っていきます。

### 【たいわっこ保育園年間行事計画】

	行 事
4 月	進級式
5 月	避難訓練・運動会
7 月	七夕・元気まつり・プール開き
8 月	すいか割り
9 月	敬老会
10 月	避難訓練・ハロウィン
11 月	焼き芋会
12 月	クリスマス会
1 月	餅つき・白鳥見学
2 月	豆まき会
3 月	修了式・お別れ会

## ■ 各委員会及び係 年間計画

### □ ユニットケア委員会

#### 【目標】

#### 24時間シートの活用

入居者一人ひとりのニーズ（必要性）、身体状況、生活シートを記載するシートが24時間シートであり、これを目安として職員間での情報を共有し（ケアの統一）「その人らしい暮らし（生活）を営んで頂く」ことが目的である個別ケアを実践するために必要なアセスメント方法、24時間シートの役割・意味を職員一人ひとりが理解する。

#### 【活動内容】

- |         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 4月～6月   | ユニットサブリーダーを中心とし、入居者体験を各ユニットで行う。      |
| 7月      | 入居者体験で感じたことを基にグループワークを行う。            |
| 8月      | グループワークの結果、感想をリーダー会議で発表              |
| 8月～9月   | ユニットケア委員が入居者2名ずつ選択し、モデルとして24時間シートを作成 |
| 10月～12月 | 24時間シートに基づいたケアの実践                    |

### □ 事故防止対策委員会

#### 【目標】

#### ヒヤリハットの報告件数が事故報告を上回るようにしていく

ヒヤリハットの基準の見直し、書式の簡素化を行い、職員一人ひとりが「事故を未然に防ぐ」意識を身につける。  
また、研修委員会と連携し、事故防止・ヒヤリハット研修の企画、実施をし、職員のリスクマネジメント力を高めていく。

#### 【年間活動計画】

年間2回（9月・3月の予定）の施設内研修を実施する。9月はヒヤリハット報告の重要性・必要性の理解を深めると共に、ヒヤリハットと事故の基準を明確にし、報告書の正しい書き方についても研修を行っていく。3月の研修については、9月研修後の職員の動向を窺いながら委員会で研修内容を検討していく。

毎月の活動としては、これまでの活動と同様に毎月第2週月曜日の定例委員会により、月間の事故とヒヤリハット報告の検討を行う。また、各ユニットに担当委員を割り振り、ユニットごとの事故検証を行っていくことを予定しており、検証結果と今後の対策について各ユニットへの周知を行っていく。ユニットごとの事故検証については、どのように実施していくかについては、今後委員会で検討していく。

### □ 苦情解決委員会

#### 【目標】

- ① 初期対応の徹底でクレームを最小限にとどめる

初期対応についての研修を企画、実施し、各ユニットで苦情に対する初期対応を徹底して行い、クレームが大きくなる前に解決できる体制を作る。  
 また、クレームを出さないという考えではなく、クレームについて「御意見」「要望」と捉え、謙虚な気持ちで対応し、リスクマネジメント同様に、クレームのヒヤリハットを多く見つけ、一つ一つ解決することで、大きなクレームの減少を目指していく。

### ③ クレーム対応の記録の徹底

起こったクレームについて、その対応記録を徹底し、今後のサービスの質の向上、苦情解決マニュアルの見直しに繋げていく。

## □ 防災対策委員会

### 【平成26年度年間計画】

	実施事項
4月	普通救急救命講習
5月	防災訓練（夜間想定 法定訓練）
6月	防災設備点検 コンセント（漏電）点検
7月	防災訓練（自主訓練）
8月	消火器・消火栓の実技訓練・緊急搬送訓練の実技
9月	災害備蓄品の点検・非常設備の使用
10月	避難訓練（昼間想定・法定訓練）
11月	通報訓練
12月	防災設備点検
1月	避難経路図の点検・確認
2月	講習会
3月	防災計画・マニュアルの見直し

## □ 感染症（褥瘡）予防対策委員会

### 【目標】

#### インフルエンザ・ノロウイルス等の集団感染「0件」を目指す

平成24年度、平成25年度共に入居者のインフルエンザ・ノロウイルスの集団感染は0件でした。平成26年度も引き続き集団感染0件を目指します。  
 上記目標達成のために、現在実施している感染予防対策をさらに徹底、年2回の研修による職員の意識付け、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症に罹患した場合の初期対応を早急に行います。  
 また、随時感染症予防対策マニュアルの見直しを行い、施設内の感染症予防に努めていきます。

□ 研修委員会

【平成26年度施設内研修計画】

	研修内容	講師予定	備考
4月	新規採用職員研修	各部門担当者	新人研修スケジュール作成
	救急救命講習	防災委員会	
5月	防災について	防災委員会	避難訓練と関連させて実施
	クレーム対応について	苦情解決委員会	
6月	感染予防対策	感染予防対策委員会	
7月	ユニットケアについて	ユニットケア委員会	
8月	外部講師による研修	外部講師	MTSとの連携
9月	ケアプランについて	介護支援専門員	
10月	感染予防対策	感染予防対策委員会	インフルエンザ・ノロウイルス
11月	防災について	防災委員会	避難訓練と関連させて実施
12月	認知症について	認知症実践者研修受講者職員	
1月	褥瘡予防対策	感染予防対策委員会	
2月	外部講師による研修	外部講師	MTSとの連携
3月	事件・事故対策	事故対策委員会	

- ・ 外部研修及び伝達講習については、随時予定に組み込んでいく
- ・ 研修に参加できなかった職員に対しては、各ユニット内で伝達講習を行う

## □ I T（情報技術）委員会

### 【目標】

#### ① ほのぼの介護NEXTの効果的運用

- ・ 新規採用職員に対しての操作方法等の説明、指導を徹底して行う
- ・ 職員によって習熟度に差が見られている現状もあるため、研修会を開催し指導を行っていく
- ・ 現在使用していない機能もあり、使えるものは随時導入し、使いやすい物にしていく

#### ② 介護記録方法の統一

- ・ 研修会を開催し、記録方法の統一化を図っていく
- ・ 新規採用職員に対しては、新人研修の中で記載例を交えて説明、指導を行っていく

#### ③ 施設内の情報共有の円滑化

- ・ 現在使用している施設内の連絡事項の継続及び新たな情報共有に有効な方法を検討していく。
- ・ 委員会等の情報共有の場に出来る限り職員が参加できるよう、会議方法の見直しを行っていく。
- ・ 情報管理について、職員に研修等を行い、機密情報の保護、重要データの管理を徹底していく。

#### ④ まほろば情報の定期発行

- ・ 今年度も継続して、月1回「まほろば情報」の発行を行い、家族、地域に施設での情報を提供していく。

## □ 給食委員会

### 【平成26年度目標】

食事の質（見た目・献立のバリエーション）を向上すると共に、ユニットのレクリエーションや、行事食を増やし、楽しみながら食事をしていただく

### 【給食委員会年間計画】

月	内 容	月	内 容
4月	お花見弁当の提供	11月	いい肉の日の手作りハンバーグの提供
5月	こどもの日食の提供	12月	クリスマス食・年越しそばの提供
6月	そうめん等の夏季メニューの提供	1月	おせち料理・七草粥・小豆粥の提供
7月	七夕食の提供 嗜好調査の実施	2月	ユニットでの恵方巻作り・バレンタイン食の提供
8月	夏祭り出店の出店	3月	ひなまつり食の提供
9月	敬老会食の提供		
10月	芋煮のユニット作成・秋の運動会弁当の提供		

## □ 排泄・口腔委員会

### 【平成26年度活動計画】

#### ① 排泄に関する施設内研修の実施

- ・ ハーフビネガー療法・服薬調整（下剤のコントロール）

研修委員会と連携し、4月～6月の間で実施する

#### ② 個別排泄ケアの質の向上を目指す

- ・ 個別の利用者に合わせたパット・オムツの選定・評価・検討を行う
- ・ 個別排泄パターンに合わせた排泄介助時間の評価・検討を行う

3ヶ月ごとに全体の評価を行い、その他必要に応じて個別に評価を行う

- ・ 個別の排泄状況、身体状況に合わせ、現在行っている布パンツへの移行を進めていく。

#### ③ 排泄パターン表の統一

- ・ 入居者の排泄状況を把握しやすくするため、施設全体で排泄パターン表を統一させる。また、ユニット間の業務の差異をなくすことで、引継ぎ・ユニットヘルプ等が円滑にできるようにする。

#### ④ 口腔ケア技術の向上を目指す

- ・ 利用者の個別の口腔ケアモニタリングの実施、結果を元に口腔ケアの実施状況を把握し職員間のケアの差（ムラ）をなくしていく。

モニタリングについては、長期入居ユニットを対象に実施する。

## □ レク・ボラ係

### 【行事・イベント年間計画】

月	行事計画
4月	お花見お茶会
5月	まほろば大運動会
7月	元気祭（夏祭り）
8月	花火大会（まほろば花火大会）
9月	敬老会
12月	クリスマス会
1月	新年会

- ・ ボランティアによる演奏会イベント等はその都度開催する。
- ・ 上記の他に、ユニット毎に外出、行事等の企画を行い、実施していく。



## 【地域活動】

- ・ 平成25年度に実施した吉岡小学校総合学習体験、大和中学校職場体験の受入れを継続して行っていく
- ・ 地域の商店等に依頼をし、施設内での売店の企画・実施を行っていく
- ・ 地域のボランティアと一緒に地域のゴミ拾い等を実施し、地域との連携を深めていく

## □ 喀痰吸引等業務検討委員会

### 【平成26年度活動計画】

	内 容
4 月	事故・ひやりハット事例検討
5 月	事故・ひやりハット事例検討 研修日程調整、内容の検討
6 月	事故・ひやりハット事例検討 喀痰吸引研修参加者検討
7 月	胃ろう・吸引技術研修 計画書見直し、評価
8 月	事故・ひやりハット事例検討
9 月	事故・ひやりハット事例検討 研修日程調整、内容の検討
10月	事故・ひやりハット事例検討 喀痰吸引マニュアル見直し
11月	事故・ひやりハット事例検討 実地研修受入れ（～3月）
12月	胃ろう・吸引技術研修 計画書見直し、評価
1 月	事故・ひやりハット事例検討
2 月	事故・ひやりハット事例検討
3 月	事故・ひやりハット事例検討 年間評価 来年度の計画検討

## 【その他】

- ・ 喀痰吸引研修会（宮城県社会福祉協議会主催）へ職員が受講し、喀痰吸引等の業務を実施できる介護職員を増やす（平成26年度2名受講を目標）
- ・ 看護師を講師として、喀痰吸引の技術講習会を施設内で行い、安全に喀痰吸引等の業務が実施できるようにしていく
- ・ 喀痰吸引、経管栄養マニュアルの見直しを随時行っていく

## □ 園芸クラブ

平成26年度の「園芸クラブ」活動方針としては、

- ① デイサービスも活用するにあたり、畑の拡張実施(土壌改良も含む)
  - ② 目的を持った作物の栽培
  - ③ ②を含め、施設全体の行事や各ユニットの行事に役立つような作物の栽培や花の栽培 ※レク・ボラ委員会で予定している「収穫祭」にも利用できる作物の栽培
- 以上、3点を方針として活動していきたいと考えております。

上記の方針の中で、すでに実施する予定としては次の2点です。

- ① たいわっ子園児と焼き芋大会を開催するためのサツマイモ栽培
- ② 夏野菜として、気軽に利用者が収穫でき、食事制限ある方でも召し上がれるものとして  
トマト・きゅうりの栽培

その他の栽培作物は、芋煮会やユニットで調理できそうなメニューとして

例えば…カレーやシチューをユニット炊飯するように、人参・じゃがいも  
利用者が手軽にすりおろせて食べれるように、大根 など

栽培が難しくなく、おおまかに考えられるメニューを推測して、園芸クラブで決定する予定。

尚 花に関しては、春開花用として花壇にチューリップ・水仙・ムスカリの球根を植えており、現在植えてある、パンジー・すみれ・葉牡丹は見頃が終わり次第、季節の花を植える予定。  
また花壇反対側へも季節の花を植える予定。



いつでも誰でも  
集える暮らせる  
小さな街を目指して・・・

社会福祉法人 医療介護施設研究所